

平成29年度 国際交流委員会 活動報告 1

ハルリム大学医学部看護学科との国際交流

名古屋市立大学看護学部

脇 本 寛 子, 鳶 田 理 佳, 山 口 知香枝
金 子 典 代, 樋 口 倫 代

Ⅰ. はじめに

名古屋市立大学看護学部国際交流委員会では国際交流の推進に取り組んでいる。この一環として、韓国ハルリム大学医学部看護学科と名古屋市立大学看護学部（以下本学部）との交換研修を平成24年度より開始している。平成24年度に、ハルリム大学へ本学部学生4名を派遣する交換研修を実施して以降、派遣と受け入れを交互に実施している。平成29年度は、交換研修の6年目を迎え、6月19日から6月25日の1週間にわたりハルリム大学医学部看護学科学生5名を本学部へ受け入れた。その概要を下記に報告する。

Ⅱ. ハルリム大学との国際交流の目的

1. 学部生間の国際交流

名古屋市立大学看護学部、ハルリム大学医学部看護学科相互の学生の短期交換留学を通じて、参加学生の国際的視野を広げ、海外の看護・保健・医療事情について見識を深め、異文化コミュニケーション能力を向上させることを目的としている。

2. 教員間の国際交流

名古屋市立大学看護学部とハルリム大学医学部看護学科教員間の研究、学術面での交流を通じて、異文化コミュニケーション能力の向上、2大学間での国際交流の推進、共同研究の推進を目指す。

Ⅲ. 学生間の国際交流

1. 交換研修の経緯（表1）

事業実施の経緯は、表1の通りである。研修期間の宿泊は、名古屋市立大学の留学生宿舎を使用した。研修の受け入れおよび留学生宿舎の使用に必要な必要書類（研修申請書、入寮申請書、パスポートのコピー）や留学生宿舎に関する準備は、学生課国際交流係が担当した。

3. 学生の選定

ハルリム大学の学生の選定は、ハルリム大学の担当教員が応募学生の学力、英語力等から3年生5名（女性4名、男性1名）を選出した。当初、4名の予定であったが5名の推薦があり、学生課国際交流係および研修先に学生数の増加について検討を依頼し了承を頂いたうえで、

表1 事業実施の経緯

時期	内 容
平成29年1月	研修期間の決定、留学生宿舎の予約（1/24）
平成29年4月	研修内容案の決定（4/13） ハルリム大学へ研修必要書類の提出依頼（4/13） 名古屋市立大学病院（4/13）、昭和保健所（4/19）、寸心カフェ（4/19）に研修依頼 学部長表敬訪問の日時調整（4/13） 生涯発達看護援助論Ⅰ、地域療養生活看護援助論の科目責任者に研修依頼（4/13） ハルリム大学へプレゼンテーションのテーマの提示（4/28）
平成29年5月	研修必要書類の事務室への提出（5/17） 学生ボランティアの募集（5/29） 研修内容、役割分担、アンケート、配布資料内容の確認（5/30） 学生交流会の昼食依頼（5/30）
平成29年6月	名古屋市立大学留学生後援会の申請（6/2） 情報処理室のカード、名札の準備（6/2） 配付資料とアンケートの印刷（6/13） 研修期間（6/19～6/23） 認定証の作成（6/22） 交換研修の振り返り、今後の課題の明確化（6/26）
平成29年7月	ハルリム大学から学生の評価レポートの受け取り（7/20）

受け入れ人数を5名とした。

4. プログラム内容について (表2)

プログラム内容は、表2の通りである。

1) ハルリム大学のプレゼンテーション

日 時：平成29年6月21日(水) 10時40分～11時30分

場 所：西棟講義室A

参加者：3年生、4年生の一部、教員

内 容：ハルリム大学生が、ハルリム大学および医学部看護学科のこと、また、韓国における看護師資格や専門看護師種類について説明し、引き続き質疑応答を行った。本学部学生からは、

充実した図書館や、6ヶ所にある大学病院に実習学生のための宿泊施設があることなどを羨ましく思うなどの声が上がった。

2) 生涯発達看護援助論 I

日 時：平成29年6月20日(火) 13時～14時30分

場 所：看護学部棟612演習室

内 容：「新生児の看護技術」(中垣明美講師、田中泉香助教)において『新生児のフィジカルアセスメント』をテーマとする演習に参加した。新生児の児頭計測や全身の観察について、モデル人形を用いて実施した。分娩侵襲の評価や胎外生活適応過程における生理的変化の観

表2 Schedule for 2017 exchange program between Division of Nursing, Hallym University & School of Nursing, Nagoya City University

Day	Date	Time	Place	Schedule
1	19 Jun (Mon)	10:00 10:30 11:00 13:00-14:30 14:40-	304 dormitory Getsuyoubi 304 304 Yamanohata	Orientation of NCU, School of Nursing Checkin dormitory Welcome Lunch at NCU Preparation for presentation about Division of Nursing, College of Medicine, Hallym University Campus tour of NCU(Sakurayama Campus) Go to Yamanohata campus to pay the fee for use of the using dormitory (on foot)
2	20 Jun (Tue)	9:00 9:10-9:30 9:30-11:30 11:30 12:45 13:00-14:30	304 304 304 612	NCU Meeting with Dean of the school Preparation exchange program Lunch NCU(Nursing uniform) Participation in the class " Maternal and Neonatal Nursing" by Akemi Nakagaki & Izuka Tanaka
3	21 Jun (Wed)	9:00 10:40-11:30 11:30-12:30 12:30-16:00	304 Lecture room A 302 PHC	Arrive NCU Orientation of the class "3-year-old health examination" Presentation about Division of Nursing, College of Medicine, Hallym University Lunch and Exchange between students at NCU Participate in the class "3-year-old health examination" at Showa Word PHC
4	22 Jun (Thu)	8:45 9:00-12:10 12:10-13:30 13:30-16:30 16:30	304 Training room 302 304 sunsin	NCU(Nursing uniform) Participation in the class " Gerontological Nursing" by Yuko Harasawa Lunch and Exchange between students at NCU Preparation for hospital practice Tea time at Cafeteria "sunsin" operated by schizophrenic patients at recovering stage(Free time)
5	23 Jun (Fri)	8:45 9:00-16:00 16:30-17:00 18:00-19:30	304 Hospital 304 Yamanohata	NCU(Nursing uniform) Introduction of NCU hospital (by vice chief of nursing division in NCU hospital) NCU hospital tour (e.g. operating room, ICU,PICU,CCU, Patient Amenities) NCU Student hall the first floor (Yamanohata campus)
6	24 Jun (Sat)	10:00	Kawana Station at wicket of the subway	Sight- seeing with NCU students Free time
7	25 Jun (Sun)			Sight- seeing with NCU students Free time

察と評価を詳細かつ丁寧に実施していること
に対して驚いた様子であった。

3) 地域療養生活看護援助論

日 時：平成29年 6 月22日(木) 9時～12時10分

場 所：西棟実習室A・B

内 容：「高齢者の地域生活を支える看護」(原沢准教授、江坂助手)において『美味しく安全に食べる援助』をテーマとする演習に参加した。とろみ剤によるとろみの調整、食事介助や義歯の取り扱い、粘膜口腔ケアについて指導を受けながら体験した。韓国では看護師の業務は「診療上の補助」が中心であり、本演習のような「療養上の世話」は看護助手や家族が行うため経験したことがなく、新鮮な驚きがあったようである。

4) 3 歳児健康診査見学

日 時：平成29年 6 月21日(水) 13時～15時

場 所：昭和区保健所

内 容：事前に日本の保健所および保健師の専門性、乳幼児健康診査の位置付けについてオリエンテーションを行い、3 歳児健康診査の見学を行った。保健所では、保健師による問診や医師・歯科医師の診察の見学を通して、健康診査を行うことの公衆衛生的意義について学習した。

5) 精神障がい者リハビリテーション施設寸心カフェ見学

日 時：平成29年 6 月22日(木) 16時30分～18時

場 所：寸心カフェ (昭和区)

内 容：事前に寸心カフェの概要および社会的意義について韓国語のパンフレットを用いて説明した。カフェには本学部学生4名と共に赴き、飲み物とケーキを食べながら双方の学生生活や看護の違いについて語った。

6) 名古屋市立大学病院見学

日 時：平成29年 6 月23日(金) 9 時～12時

場 所：名古屋市立大学病院 (外来、患者サポートセンター、救命救急センター、外来化学療法室、ICU・PICU・CCU、中央手術室、小児科病棟、NICU・GCU、産科病棟)

内 容：水野副看護部長と各部署の責任者・担当者の案内により、院内の部署を見学した。各部署で概要の説明を受け、学生たちは質問しながら理解を深めようとしていた。また、充実した病院施設と随所に患者への思いやりが感じられたことが印象に残ったようである。

7) 名古屋市立大学病院シャドー研修

日 時：平成29年 6 月23日(金) 13時～16時

場 所：名古屋市立大学病院17階病棟、16階南病棟、13階北病棟

内 容：各部署に1～2名の学生を配置し、看護師の業務を間近に見学するシャドーイングを行った。各部署では英語もしくは韓国語による会話が可能な看護師により対応された。学生は日本の看護師が一人一人の患者に時間をかけて丁寧に接し、手厚い看護ケアをしていることに感動した様子であった。業務内容が異なる韓国ではひとりの看護師が受け持つ患者数は20名以上であるが、日本では最大7名と聞き、その差に驚き異文化を感じたとのことであった。

8) 学生交流会 1

日 時：平成29年 6 月19日(月) 12時～13時

場 所：げつようび (桜山キャンパス)

参加者：11名 (研修生 5 名、本学部学生 3 名、本学部教員 3 名)

内 容：研修初日に研修生を歓迎するとともに、本学部学生および教員との交流を図ることを目的にウエルカムランチを開催した。

9) 学生交流会 2

日 時：平成29年 6 月21日(水)

場 所：看護学部棟302演習室

参加者：12名 (研修生 5 名、本学部学生 4 名、本学部教員 3 名)

内 容：本学部学生および教員との交流を図るとともに、それぞれの大学や各国の看護教育についての情報を交換することを目的に、軽食付きランチミーティングを開催した。

10) 学生交流会 3

日 時：平成29年 6 月22日(木)

場 所：看護学部棟302演習室

参加者：11名 (研修生 5 名、本学部学生 3 名、本学部教員 3 名)

内 容：ハルリム大学への留学に関心のある1年生の学生を含め、留学経験のある3年生と研修生5名で交流を図るとともに、留学に向けての準備等の情報交換を目的に、軽食付きランチミーティングを開催した。

11) 留学生懇親会

日 時：平成29年 6 月23日(金) 18時～19時30分

場 所：国際交流センター (山の畑キャンパス)

参加者：8 名 (研修生 5 名、本学部教員 2 名)

内 容：学生課、留学生後援会及び留学生会の共催に

よる開催である留学生懇親会に参加した。なお、当日の参加留学生数は38名であった。学部や国籍の枠を超えた国際交流を図ることができた。

5. プログラムによる学びおよび評価

1) ハルリム大学医学部看護学科学生

参加学生のプログラム全体への満足度は高く、終了後に実施したアンケートでも全体的な満足度は高く、期待した以上の学びを得たと回答していた。参加学生の多くは、日本の看護の実際を見ること、学生と親交を深めることへの期待をもって参加しており、授業参加、演習参加、病院実習、保健所実習、学生との交流を通じて期待以上の学びを得ていた。すべての学生が印象深かったプログラムとして市大病院の実習を挙げており、対象者への丁寧な看護や、直接ケアに看護師が多くの時間をかけていること、全人的な看護がなされていることに感銘を受けたと回答していた。また高齢者看護、新生児のケアに関する看護演習の参加も印象深く、学び多いプログラムであったと回答していた。また、全員が学生との交流がとても楽しく、得難い体験であったこと、教員やボランティア学生からのサポートにより不自由なく安全に過ごせたことが述べられていた。

2) 名古屋市立大学看護学部学生

本学部学生にボランティアを募り、研修生の留学生宿舎への入寮の手続き、名古屋市立大学看護学部の紹介およびキャンパスツアーの実施、精神障がい者リハビリテーション施設寸心カフェへの引率、市内観光の引率などの役割を依頼した。12名の学生がボランティアとして交換研修プログラムに参加した。これらの学生からは、「異文化に触れられる機会・日本にしながら英語を話せる良い機会だと考えたため、今回の参加に至りました。英語に自信がないからといって怯んでしまうのは勿体無く、自分から発言していく大切さや諦めずにコミュニケーションを取る姿勢を示すことの大切さなどを感じ、言語の壁があるからこそ人と関わることの根本に目を向けられる機会となりました。」「今後もハルリム大学との交流がお互いにとって学びのあるものとして続いていけばいいなと思います。」などの感想が寄せられた。

Ⅲ. 教員間の国際交流

教員間の国際交流として2大学間での国際交流の推進、共同研究の推進を目指しているが、昨年度まで実施していた大学教員間での共同研究は、データ収集を終え、平成29年度は成果をまとめている段階である。平成29年度は、新たに両大学間での具体的な共同研究に発展できる

テーマを模索するため、ニーズマッチングを実施した。研究テーマが合致するものがあれば、共同研究チームを結成する予定である。

Ⅳ. オープンキャンパスでの特別企画

平成29年8月8日に開催された名古屋市立大学看護学部オープンキャンパスの特別企画として、韓国ハルリム大学医学部看護学科と名古屋市立大学看護学部の交換研修についての特別企画を実施した。内容は、概要、平成29年度の研修内容、平成28年度の研修内容について3回の説明を行い、来場者に対して質疑応答を行った。また、交換研修に参加した学生がハルリム大学で行ったプレゼンテーションを英語で紹介した。研修期間を通じて、学生間の交流が出来るプログラムを準備し、どの学生でも交流できる機会を設けていることを高校生やその保護者に説明した。

Ⅴ. まとめと今後の課題

今回のハルリム大学医学部看護学科学生5名を本学部に入れた交換研修プログラムによる学びは多岐にわたり、充実したプログラムが提供できたと考える。今後の課題として、主に、服装に関すること、プレゼンテーションに関することの二点が挙げられる。服装に関しては、演習や病棟実習の場合は、ユニフォームを着用するように説明したが、文化の違いか診察衣を準備していた。また、保健所など外部施設を見学する場合は、華美でない服装とすることを説明したが、軽装であった。次回は、写真などを用いて、日本の文化として服装の指導について丁寧に説明する必要がある。プレゼンテーションでは、韓国の保健医療に関する内容をテーマとして提示していたが、ハルリム大学の紹介のみの内容であった。本学部の学生は興味深く聴いていたが、交換研修の内容として提示したテーマの内容のプレゼンテーションとなるよう指導が必要である。プレゼンテーションの開催日時は、学部3年生が聴講できる日時に設定したことから、一部の学生のための聴講となった。どの学生もこのプレゼンテーションを聴講する機会が得られるよう、特別講義としての位置づけとするなど全学部的な取り組みにする工夫が必要と考えられた。

今回の学生受け入れに際し、本学部学生をボランティアとして活用した。他学部では、受け入れ教員の負担が多いことが問題となっており、国際交流センター会議でgood practiceとして評価された。今年度より導入された、留学生後援会からの「海外の交流協定大学からのインターンシップ留学生受入れ補助」は学生ボランティア活用を後押しする制度であると考えられ、今後の継続が望まれる。本学部学生にとっても国際交流の目的を達成

できたと考えられ、今後も学生ボランティアの活用は継続して行く。一部の熱心な学生の参加により支えられた事業でもあったが、全学部的な交流にするためには、より多くの学生の参加を促す工夫も必要である。学生のサークルの活性化への支援や国際交流を身近に感じてもらえる広報を今後も継続していきたい。

看護学部のオープンキャンパスで特別企画を実施したが、今年度の学生交流会に参加した本学部1年生の学生は、高校生のころから本学部・ハルリム大学への交換研修があることを知っており、入学前から関心を持っていた。オープンキャンパスで周知していくことは、学部生間の国際交流に寄与できると思われた。

教員間の国際交流の推進ができるよう、今後も引き続きニーズマッチングを行い、共同研究が推進できるように対応していく。

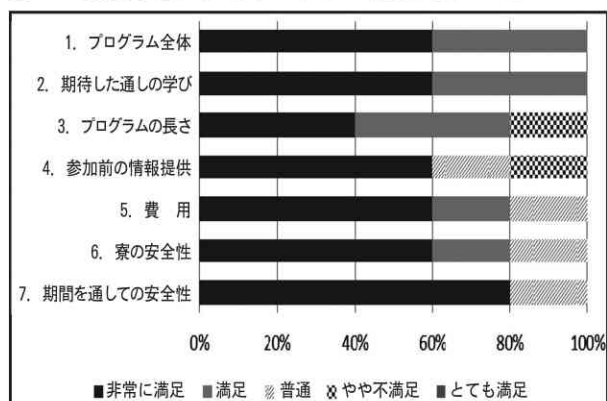
IV. 謝辞

交換研修プログラムの実施にあたり御協力を頂きました名古屋市立大学看護学部、名古屋市立大学病院、名古屋市昭和区保健所、精神障がい者リハビリテーション施設寸心カフェの皆様には感謝申し上げます。本事業は、名古屋市立大学留学生後援会の助成を受けて実施しました。

表3 参加学生からのプログラム評価

1. 参加前に期待していたこと
 - ・日本の学生と親交を深めたい
 - ・日本の看護の実際を見てみたかった。
 - ・大学附属病院の看護の日韓比較
2. プログラムで学んだこと
 - ・日本の丁寧な看護ケア（全員）
 - ・日本の看護技術演習、実習の実際
 - ・実習演習のみならず、名市大の学生との交流からも多くを学ぶことができた（全員）。
 - ・日韓の文化の違いを感じた。授業演習も学生は大変静かに聞いていて、韓国の質問やコメントが授業中にも頻繁に行きかうスタイルとは異なっていて面白かった。
3. 最も印象的だったプログラム
 - ・市大病院での実習（全員）
 - ・名市大の学生・ボランティアとの交流や意見交換（全員）
 - ・新生児の演習
 - ・保健所の見学実習
 - ・精神障がい者リハビリテーション施設寸心カフェ
4. 日本と韓国の看護・医療ケアの違い
 - ・韓国と比べて日本の看護師は患者への直接的なケア提供に長い時間をかけていた。
 - ・日本の看護は全人的なケアを行っていると感じた。またケアの質も高いと感じた。
 - ・患者さんの態度、マナーも非常に良いと感じた。
 - ・看護師の業務量も韓国より日本の方が少ない印象を受けた。一人当たりの看護師が担当する患者の数も韓国より日本の方が少なかった。
 - ・ナースコールの鳴り出しの記録から、ナースコールがどの時間帯に多いかが予測もなされていて非常に感銘を受けた。
 - ・患者さんのプライバシー保護に配慮がなされていると感じた。
5. このプログラムで学んだことをどのように生かしたいか
 - ・新生児・小児看護、高齢者看護の実際を学べたのがとても良かった。韓国では少子化の影響で新生児への看護や助産ケアの実際を学べる機会がほとんどないのが実情である。貴重な体験をさせていただいたので、今後にも活かせると思う。
 - ・高齢者ケアは日本の方が韓国より進んでおり、クオリティも高いことを感じた。韓国でも日本のケアの実際から学べる点が多いと思う。
 - ・丁寧な看護については、韓国は日本から学ばなければならないと感じた。
 - ・韓国の病院で就職してから日本での看護のよい面を紹介するなどして、活かしたい。

図1 参加学生によるプログラム評価 (N = 5)



1. プログラム全体



生涯発達看護援助論Ⅰの演習



ハルリム大学学生によるプレゼンテーション



地域療養生活看護援助論の演習



名市大学生との交流



精神障がい者リハビリテーション施設寸心カフェ見学